

評価施策名	2 鉄道をさらに便利にする	施策CD	32	施策主管部	企画政策部	部長名	伊藤 泰行
政策名	第3章 人・物・情報を高度につなげる			施策関係部	都市計画課・日吉地域総務課・八木産業建設課		

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21	H22		H23	H24
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	目標値
市内JR各駅の1日の乗降客数(前年度実績)	人/日	14,186	15,337	15,000	15,095	18,000	18,000

○ 流入人口や定住人口を増やし、活気のあるまちづくりを進める。

1 南丹市の現状(課題)

- 毎時3 - 4本の運転がありながら、夕方のラッシュ時にさえ30分近くも列車間隔が空く時間帯があり、不均衡なダイヤとなっている。
- 大都市圏の都市交通の機能を担うには満足な運行形態とはなっていない。
- 利用者は、平成台の分譲開始や学生の増加等に伴い、ここ近年増加傾向にある。

(現状)

・市内各駅の1日平均利用者(乗降者)数合計

平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
14,197人	14,340人	14,340人	14,663人	14,849人	14,529人	15,581人

2 対策をしなければどうなるのか

- 京都市内等で就学または就職する人が、市内近郊に居住の拠点を移す。
- 南丹市の居住者人口は、減少してゆく。
- 定期交通が確保されないことから、観光客が減少する。
- 南丹市の活力は失われる。

3 それは何故おきたのか

- 住民の移動手段が、鉄道主体からマイカーへと移り変わってきた
- 旧国鉄時代は、あくまでも長距離特急や長距離普通列車を中心に運行されていた。
- 京都近郊の通勤通学の需要がほとんど考慮されていなかった。

4 それらを解決するために何をするのか

① 鉄道利用者を増加させる。

- ・JR山陰本線の複線化促進
- ・園部駅以北の利便性向上に関する活動
- ・公共交通ターミナルの機能強化
- ・駅周辺の環境美化の推進
- ・鉄道利用の利便性向上
- ・鉄道利用客の増加に関する様々な取り組みの実施

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

		単位	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(計画額)		千円	28,956	411,725	60,582	33,352	32,841
財源内訳	使用料・手数料	千円	19,104	77,066	18,384	19,412	19,409
	国・府支出金	千円	0	6,520	23,959	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	9,852	328,139	18,240	13,940	13,432
職員従事人数		人・年	4.71	4.75	1.90		
人件費		千円	16,002	16,369	14,657		
事業費総額		千円	44,958	428,094	75,240		

【施策目標の達成に貢献度の高い事業】

全 8 事業 単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	
		うち一般財源	うち人件費
都市整備事業(都市整備事業)	17,532	5,799	3,982
都市整備事業(園部駅周辺維持管理・整備事業)	6,684	6,212	2,042
駅関連施設管理運営費(胡麻コミュニティセンター管理運営費)	5,038	3,717	1,278
都市整備事業(八木駅前駐輪場事業)	1,922	1,336	1,165

【前年度の評価】(要約)

【総合評価】

平成22年3月に永年の念願であったJR山陰本線園部・京都間の複線化が完成し、大幅なダイヤ改正が行われた。これにより園部・京都間の利便性は格段に向上した。園部駅での乗降客は増加傾向にある。また園部以北の接続利便性の向上により時間短縮が図られた。

園部・京都間の複線化の完成により、今は乗降客が増加傾向にあるが、利便性の向上により、特に学生等の流出も懸念されるが、今後より一層の駅周辺整備を進めて行き目標値の達成を図る。

【改善の方向性】

園部以北、園部・綾部間の複線化促進活動を強化すると共に、現状のJRダイヤの利便性の向上、駅及び駅関連施設の更なる整備を進めて行く必要がある。

八木駅舎・園部駅東口広場整備の具現化に向けた関係機関との協議を進める。

現駅関連施設の管理については、利用客の満足できる管理の向上を図っていく必要がある。

駐輪場については、利用者の利便性向上の図れる管理体制を検討していく。

【今年度の評価】

【総合評価】

① 目標の達成状況

前年度末に園部京都間の複線化が完成し、ダイヤ改正等により飛躍的に利便性が向上した。園部駅での以北接続時間の短縮が図れた。

② 目標値や施策の考え方の見直し

複線化の完成による利便性向上により、目標値の達成を図る。

【改善の方向性】

① 今後の方向性

園部・綾部間の複線化促進活動の継続及び、駅関連施設の整備促進。

② 各事業の対応

八木駅舎の改築、園部駅東口整備の具現化をさらに図る必要がある。

【評価を受けて取り組んだこと】

平成21年度で取り組んだJR八木駅舎等整備計画結果などを踏まえ、JR京都支社、JR福知山支社に対し駅舎のバリアフリー化等に関し要望を行った。また、前述整備計画により、平成23年度当初予算に八木駅舎等基本設計業務の予算計上を予定した。

園部駅以北の更なる利用促進を図るため山陰本線南丹市広告宣伝事業として、平成22年度当初予算に5,300千円を計上し南丹市のPRに努めた。